

異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

大家好。皆さんこんにちは、中国・山東省済南市に派遣されている阪口と申します。済南市には今年9月から派遣され、現在は済南市内にある山東師範大学の国際交流学院にて中国語を勉強しています。

山東省は茨城県や石川県とほぼ同緯度に位置し、日本の面積の約4分の1の大きさがあります。人口は約9,800万人で中国国内において2番目に人口の多い省です*。また、山東省には二つの世界遺産があります。一つは、かつて即位した72人の皇帝が封禪の儀式を行った地であり、現在も多くの中国人が訪れる泰安市にある「泰山」、もう一つが、日本でも有名な孔子の出身地、曲阜市にある「曲阜の孔廟、孔林、孔府」です。

さて、私が現在滞在している済南市は、そんな山東省の省都であり、約700万人の人口を擁する大きな街です*。済南市には関西国際空港から毎日直行便が飛んでおり、約2時間半で来ることができます。済南は泉の街として有名で市街地だけで大小合わせて100余りの泉があり、見所の多いところです。また、中国8大料理の一つに数えられる山東料理も有名です。

私は現在、済南市にある山東師範大学で中国語の勉強をしています。私のクラスメイトはアメリカ、韓国、ケニアなどの8カ国からの生徒で構成されており非常に国際色豊かな環境にいます。授業中でも色々な国の文化を垣間見ることができ、中国語を学びながらそれらの国の人達からも刺激を受けています。

また、学校の図書館には「済南中日交流之窗」という日本のコーナーが設けられており、そこに和歌山県を紹介するスペースもあります。そこでは、2週間に一度のペースで学生達と交流する場があり、毎回楽しく出席しています。



大明湖



学校内の毛沢東像



交流会の集合写真

*「山東省概況」JETRO 青島事務所 2016年3月より
〈阪口 昂（平成28年9月より山東省山東師範大学で研修中）〉

英語コラム

◎英語担当国際交流員が英語にまつわる話題を紹介するコーナーです。

◆ Application の今と昔 ◆

皆さんは、「application」という単語を聞いて何を連想しますか？「申し込み」、「応用」などいろいろな意味がある単語ですが、パソコンなどのソフトウェアを指す「アプリケーション」が頭に浮かぶ人も多いと思います。ところが、20数年前、パソコンが世の中に普及しはじめ、この「アプリケーション」というカタカナ語が日本語として使われるようになった当初は、英単語「application」そのものには、このようなソフトウェアの意味はありませんでした。その意味を示すには、「application software」、「application program」のようにソフトウェアを意味する語をつける必要がありました。日本語でも「アプリケーションソフト」という表現があるのと同じです。

しかし、こうした使われ方が普及するにつれて、現在では「application」単独でもソフトウェアの意味を表すようになりました。さらに、日本語で「アプリケーション」が「アプリ」と略されるのと同じように、スマートフォン向けなど小規模なアプリケーションには、英語でも「app」という略語がよく使われています。iPhoneのアプリ配信サービス「App Store」は、その代表例ですね。

このように、英語も日本語も、生きている言葉は、時代とともに意味が広がったり変わったりします。今の「application」も、何十年か後にはまた違った意味で使われているかもしれない、と想像すると興味深いかもしれませんね。

